

桑折町小・中学生 各種コンクール受賞報告

# キラリと光る、多彩な才能評価され

令和2年度におけるさまざまな分野のコンクールで、名誉ある賞に選ばれた20人の児童と生徒たち。代表者5人に、作品に込めた思いや、受賞の知らせを受けたときの気持ちを聞きました。どの作品からも、地域への愛情や家族とのきずなが伝わってきます。

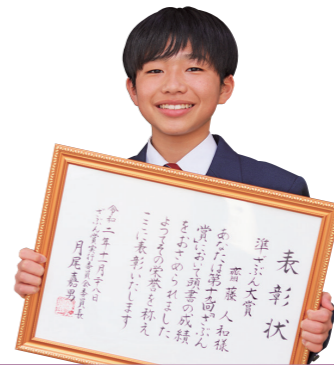
国や県が主催するコンクールや、教育委員会による「コロナに打ち勝て桑折っ子プロジェクト」において、優秀な成績を収めた児童・生徒たち。当初「合同受賞報告会」の開催を予定していましたが、2月13日に発生した地震の影響により、やむなく中止となりました。代わりに、広報紙で代表者の思いを紹介します。

「コロナに打ち勝て桑折っ子プロジェクト」とは、新型コロナウイルスに負けずに、自分自身や家族、地域で取り組むコロナ対策を募集したもので、特に工夫と努力が認められる人を表彰しました。

▼各種コンクール受賞者の皆さん  
 醸芳小3年 荒川蒼志さん（県読書感想文コンクール 特選）、半

田醸芳小2年 田中彩瑛さん（ふくしまを十七字で奏でよう 絆ふれあい支援事業）復興部門 優秀賞、伊達崎小1年 八巻彩葉さん（県読書感想文コンクール 入賞）、醸芳中2年 齋藤人利さん（ざぶん賞作文コンクール 準ざぶん大賞）、同中3年 佐藤和歩さん（全国地域安全運動 地域安全標語部門 子供と女性の犯罪被害防止 佳作）、同中2年 阿部ちづるさん（第58回中学生作文コンクール 都道府県別1等福島県）、同中2年 永塚大雅さん（県地域安全作文コンクール 佳作）、同中2年 豊島桃奈さん（県読書感想文コンクール 準特選）

▼「コロナに打ち勝て桑折っ子プロジェクト」受賞者の皆さん  
 醸芳小6年 斉藤莉子さん、同小3年 佐藤煌太さん、同小2年 菅野泰瑠さん、陸合小6年 佐藤楓さん、同小6年 六戸桃音さん、半田醸芳小6年 佐藤大介さん、同小6年 佐藤琉空さん、伊達崎小6年 大槻虎海さん、同小5年 幕田悠介さん、醸芳中1年 遠藤咲穂さん、同中2年 豊島桃奈さん、同中3年 加藤実耶子さん



表彰状  
 齋藤 人利さん = 醸芳中=

「うちの桃は世界一」と題し、町内で桃農家を営む祖母のことを書きました。きっかけは、「今日は暑いから、桃たちも喉が渇いているだろうなあ」という何気ない祖父の一言。詳しく聞くと、「桃も人間と同じように、生命が宿っていること」「水分管理が良い土づくりにつながっていること」を教えてくださいました。桃の気持ちを知り尽くし、難しい水分管理を行う祖母だからこそ、「献上桃」という高品質な桃を作れるのだと感じました。

受賞式の日、偶然にも祖父の誕生日でした。自分のことのように受賞を喜んでくれた祖父の笑顔を見て、一層うれしさがこみ上げました。いつも美味しい桃を作ってくれる祖父母に、最高のプレゼントができたと思います。

水や海をテーマにした創作文コンクール。ざぶん賞実行委員会主催。全国6,657点の中で、全国2位相当の準ざぶん大賞に選ばれた。



中学生作文コンクール  
 阿部 ちづるさん = 醸芳中=

昨年5月に母ががんを亡くなり、その時生命保険に助けられた実体験を書きました。母の死を通して、人生とはいつ何が起こるか分からないと思い知りました。生命保険に入っていたおかげで、急な入院費用なども慌てずに済み、保険の大切さを実感しました。

今まで自分が入っている保険の中身をきちんと把握していませんでしたが、このことをきっかけに、父に聞いたり、インターネットで調べたりして、理解を深めています。自分の経験をもとに、周りの人にも「保険は自分だけでなく、誰かの役にも立てる」ということを伝えたいです。

受賞の知らせを聞いて、家族みんなで驚きました。天国にいる母も、きっと「よく書けたね」と喜んでくれていると思います。

暮らしと生命保険をテーマにした作文コンクール。生命保険文化センター主催。全国26,018点の中から県内1位に選ばれた。



全国地域安全運動 標語部門  
 佐藤 和歩さん = 醸芳中=

「灯る道 選んで歩けば 防ぐ道」。夜道を歩く子どもや女性が犯罪に巻き込まれることが多いというニュースを見て、この標語を作りました。上五の表現に悩みましたが、単に「明るい道」とするのではなく、文字数に合わせて「灯る道」とし、見た人の印象に残るような言葉を選びました。

警察署の方から直接電話で受賞の知らせがあり、まさか選ばれるとは思っていませんでした。新聞にも受賞の記事が掲載されてうれしかったです。

標語づくりをきっかけに、地域の安全や防犯にも興味をわきました。自分自身も夜道を歩くときは街灯が多い道を選び、周りの人にもこのことを広めて、犯罪が少しでも少なくなればいいなと思います。

県防犯協会連合会らが地域安全をテーマにした標語を募集。県で2位の優秀賞となり、全国審査で3位相当の佳作に入賞した。



県読書感想文コンクール  
 荒川 蒼志さん = 醸芳小=

授業で習った地球温暖化について興味があり、「ポリぶくろ、1まい、すてた」を読みました。地球温暖化を防ぐためには、プラスチックの排出量を減らすことが大切だと学びました。

早速自分でできることを実践してみることに。母と買い物へ行くときには、レジでポリ袋をもらわず、エコバックを使ったり、プラスチック容器の製品をあまり買わないようにしたり心がけています。大人になっても、この習慣を続けたいです。

昨年もこのコンクールで入選し、2年連続で選ばれてとてもうれしいです。読書が大好きで、普段から1か月に10冊くらいの本を読んでいます。これからもさまざまな分野の本をたくさん読んで、自分の中の引き出しを増やしていきたいです。

読書を通じて思考力を育むことを目的に学校図書協議会らが主催。各地区で選ばれた小中高402点の中から、小学3年の部で1位に選ばれた。



コロナプロジェクト  
 豊島 桃奈さん = 醸芳中=

コロナ対策と地球温暖化対策を両立するプロジェクトを考えました。新型コロナウイルス感染症対策による外出自粛の影響で「おうち時間」が増えたため、自宅の電気使用量が増えていることに気がきました。コロナ対策をしながらも、地球温暖化の進行を防ぐために、「暖房は20度まで」「部屋が温まったら暖房を消す」「テレビを見る時間を短くする」などの電気使用量を抑える目標を決めて実践しました。

感染症の流行や地球温暖化を進めたのは人間であり、これらをなくし、元通りの世界に戻すことができるのも、人間だと思います。みんなで知恵を出し合い、コロナ対策も地球温暖化対策も一人一人がちゃんと意識して行えば、感染症も地球温暖化も止められると思います。

町教育委員会主催の「コロナに打ち勝て桑折っ子プロジェクト」。町内小中学生からの応募数約800点の中で、努力賞に選ばれた。